

今月の表紙
今市屋台まつり



10月18日(日)、日光街道の春日町交差点から小倉町交差点までを通行止めにして開催された今市屋台まつりは、今市のまちを盛り上げようと初めて企画されました。

午前10時から始まったまつりでは、今市地域の彫刻屋台・花屋台8台が練り出し、2台の屋台が向き合ってお囃子を競い合う「ぶっつけ」が披露され、屋台の引き回しも行われました。

日が傾くと、それぞれの屋台の提灯に灯りがともり、訪れた人たちは、昼間とはまた違った屋台の雰囲気を楽しんでいました。

まつりの最後には、参加した8台の屋台が本部前に集合してお囃子を競い合う「総ぶっつけ」が行われました。にぎやかなお囃子に合わせて威勢のいい掛け声上がり、会場の熱気も最高潮を迎えた後、実行委員会屋台部長浅間勝美さん(相生町)による3本締めでまつりを締めくくりました。



10月31日(土)～11月3日(火)の4日間、日光だいや川公園を主会場として、第15回日本そば博覧会を兼ねた2009日光そばまつりが開催されました。

初日の31日には、全国麺類文化地域間交流推進協議会理事長である齋藤市長と韓国のそば普及団体「李孝石文学宣揚会」の梁根容理事長により、日本と韓国のそば文化の交流を継続していくための友

好交流協定が締結されました(写真①)。その後、日光手打ちそばの会キャラクター名(日光そば太郎)の発表も行われ、命名者である松原幸隆さん(神奈川県)が表彰されました(写真②)。

また、31日と11月1日には、大沢体育館で素人そば打ち4段位認定大会が行われました(写真③)。

全国から3段位を持つ96名が出席し、このうち47名が見事4段位を

取得しました。

今年は、まつりの後半に雨や冷え込みなどで天気が崩れたものの、4日間で13万5,000人の来場者を数える盛況ぶりです。会場にはそばを味わう人たちの笑顔が溢れました(写真④)。

なお、最終日には今市大通りアーケード街で、17店が参加する「焼きそばまつり」も開催され、各店の焼きそばを食べ比べする人の列で、こちらも大盛況でした。

11月1日(日)、市公設地方卸売市場の市場開放デーが開催されました。これは、市場を消費者である市民に開放し、市民と市場関係者との交流を図ることを目的にし、毎年1回行われています。

当日は、青果物や水産物などが市価よりも安く販売されることもあり、午前8時の開始時間前から多くの方が詰めかけ、大盛況のうちを終了しました。

2009日光そばまつり

10月17日(土)、世界遺産登録推進シンポジウムが足尾地域で開催されました。

午前中の産業遺産見学会には15名が参加し、地元のガイドの方などの説明を聞きながら、宇都野火薬庫跡と小滝地区を見学しました。宇都野火薬庫跡は、昨年、国史跡に指定され、現在一般公開されていませんが、所有者の協力で特別に公開されました。見学会に参加



した星野さん(群馬県)は、「宇都野火薬庫跡を前から見たいと思っていたので参加しました。実際に見てみると昔の建物の丈夫さに驚きました」と話してくれました。

午後には、文化庁の佐藤正和主任文化財調査官が、「史跡足尾銅山跡の歴史的意義」と題して講演を行いました。その後、パネルディスカッションも行われ、足尾銅山についての理解を深めました。



10月31日(土)、霧降スケートセンターの屋外スピードリンクがオープンしました。

当日は、営業期間中の安全を願う神事や、お払いの神職を先頭に市内の小中学生などが400mリンクを1周するなどのセレモニーが行われました。その後リンクは無料開放され、多くの家族連れや子どもたちでにぎわいました。

セレモニー後には、今年から始

まったスケート・アイスホッケー教室の初回も行われました。教室は、スケートの普及と強化育成を目的にスポーツ振興くじ助成金を受けて開催され、日光アイスバックスの選手が実技指導しています。この日行われた小学1～3年生対象のコースには、スケートがほとんど滑れない子どもも参加しましたが、現役選手の丁寧な指導で見るとるうちに上達しました。

足尾銅山の世界遺産登録推進シンポジウム

川治温泉
ふれあい秋の縁日



10月12日(月・祝)、薬師の湯駐車場で川治温泉ふれあい秋の縁日が行われました。

いろいろな屋台が出たほか、射的(写真)やベーゴマ回しなども行われ、来客者は懐かしい遊びに興じていました。

また、地元のホテルなどが栃木県産の食材を使って考案した新メニューの試食も行われ、皆さん列を作って大盛況でした。

文化財見学会

10月28日(水)、文化財見学会が行われました。毎年1回、各地域ごとに行っているこの行事ですが、今年は栗山地域を訪れました。

当日は17名が参加し、栗山東照宮(写真)や平家杉、高房神社などを見学。野門の栗山東照宮では、例年1回しか見ることができないご神体を特別に見ることができました。地元の方からの説明もあり、参加者からは感嘆の声が上がっていました。

